

2026年2月6日 1,300部発行

■ 神学教育後援会募金事務担当

山崎道子（豊中教会教師） TEL：06-6852-3078 FAX：06-6855-1081
〒560-0024 豊中市末広町1-2-28 日本キリスト教団豊中教会

■ 分担金事務担当

尾島信之（南大阪教会教師） TEL：06-6622-2011 FAX：06-6622-2048
〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町1-30-5 日本キリスト教団南大阪教会



教会と幼稚園

有岡 史季（敦賀教会）

「少子／高齢化」という、現代社会が抱える悩ましい課題を真正面から受け止めているのが「教会／幼稚園」だと思います。

私が奉職している敦賀教会幼稚園は、「教会幼稚園さん」の呼称で親しまれ、たまに「協会幼稚園」と誤記されるのも、これまたご愛嬌という感じで地域に根付いています。現住陪餐会員50名、園児60名（2歳含む）・教職員17名。両者ともに小さくも大きくもない規模です。幼稚園の在園児・卒園児が繋がることで教会学校も10名前後で活動できており、幼稚園と共に歩む教会の恩恵をととても感じています。

とある、ご葬儀があった平日の昼下がり。『神共にいまして』を歌う葬列に、園児たちの目が注がれます。不思議そうな表情には、でも怯えはなくて、命が去り行く様を興味深く観察しているように見えました。「揺り籠から墓場まで」が実現している稀有な場所です。

幼稚園が宗教法人立だった時代の名残なのか、定例役員会の「各部各委員会報告」の中に「幼稚園報告」があります。園内外の行事、

園児数推移、労務状況などの諸報告、あと園長の弱音も含めて受け止めてくれます。学校法人理事・評議員のほとんどが教会役員ということも賛否両論ありはしますが、弊園においては円滑に機能しています。

一方で、そういう「教会／幼稚園」双方における恵まれた環境も、「少子／高齢化」という大きな社会変動の中で、いつまで維持できるのかと常に不安で仕方ありません。どんどん減る教会の信徒さんと経常収入、園児数の±1名に一喜一憂する幼稚園の経営状況。

とくに幼稚園では、小難しい財務諸表と睨めっこしながら、新しい補助金制度をくまなく探して経営安定を図りつつ、労働基準法を遵守の上、現場との意思疎通を丁寧に行い、先生達が気持ち良く働き、子どもに全力を尽くせるよう環境を整えます。保護者の方々に安心してもらうため細やかな情報発信は必須で、保育・教育行政に通ずるよう私立幼稚園協会など外部団体との連携も欠かせません。そんなこんなで、やっと平日が終わったかと思えば、御言葉との格闘を経て「安息日」を迎えるという。

でも、結局、祈祷会で聖書のことを語り合ったり、園庭で「これ見て、変な石！」と子ども達とふざけて笑ったり、卒園式でお家の人
が泣いてくれたり、主日礼拝の説教原稿が欲

しいって言ってもらったり。そんな一つ一つの出来事に力を頂きながら「まあ、悪くないか」と、神様見上げて日々励んでいます。



第三の居場所

齋藤 麻実 (旭川星光伝道所)

2017年、私は北海道の旭川星光伝道所に着任しました。そこで直面したのは、冬場に子どもたちが安全に遊べる場所がなく、交通の便も悪いという地域の課題でした。「子どもたちの居場所を作りたい」との思いから、2018年に教会の会堂を開放する「あそびば」をスタートさせました。

「あそびば」のルールは、聖書の話が強要しないこと。「神様」という言葉を使わなくとも、その場にいるだけで「自分は大切にされている」と感じられる場所を目指しています。たこ焼きパーティーなどを通じて子どもたちが集まり始め、次第に地域の方々も差し入れやボランティアで関わってくださるようになりました。またそのつながりから旭川市のひとり親支援事業でのお子さんの預かりが会堂で行われています。

2020年からのコロナ禍、そして2021年に近隣中学校で起きたいじめ・凍死事件の際も、教会は学校に行くことが出来なくなった子どもたちの避難所となりました。家に一人で行られない子のために平日も扉を開け、不登校支援団体とも連携しながら、親子が安心できる居場所を提供し続けました。また、2023年には私たち牧師家族が転居し、空いた牧師館部分を2025年2月から住宅確保が困難なご家

庭に貸し出しています。

会堂の老朽化のために2020年から今後についての話し合いを続けていましたが、資金難や高齢化で決断できずにいました。2024年の教会総会の日、「あそびば」の常連である中学生たちが私の不在中に玄関で遊んでいて教会のドアのガラスを割ってしまったのです。彼らは逃げずに謝罪し、拙い言葉で「自分たちにとって教会がいかに大切な場所か」を語ってくれました。その姿に心を打たれた信徒のみなさんは、「この子たちと共に歩みたい」と工事を決断しました。家でも学校でも怒られることの多い彼らも、今では教会の力仕事を進んで手伝ってくれています。

工事期間中は近隣のイオン旭川春光店のご協力で活動を継続し、それがきっかけで新たな地域団体や高齢者向け体操教室も発足しました。着任当初は静かだった教会が、今では平日になると子どもたちや地域のみなさんで賑わっています。

「学校」でも「家庭」でもないからこそ、できることがある。教会が地域の方々に支えられながら、誰もがふらっと立ち寄れる「第三の居場所」として用いられることを願っています。覚えてお祈りください。

❖ 全国同信伝道会神学協議会2025に参加して ❖

吉岡 知彦（紅葉坂教会）

この度、全国同信伝道会主催の神学協議会2025に、紅葉坂教会より参加させていただきました。同志社大学創立150周年という記念すべき年に、8回目となる教師・信徒合同の集いに参加し、良き出会いと交わり、学びの機会を与えられまして、心から感謝しています。

1日目、ハーディーホールで執り行われた開会礼拝では、廿日市教会の福山裕紀子牧師の説教と、会衆讃美の壮大な響きで胸を熱くしました。

続く主題講演は、小原克博学長より「キリスト教主義の将来～同志社創立150周年を迎えて～」と題して、創立150周年の歴史を踏まえ、次世代に「何を受け継ぎ、何を渡すのか」という課題について、力強く語られました。「受け継ぐ」というのは、右から左にパスするのではなく、自らの解釈をして「Unpack」することで確実なものとなる。将来については、変化の激しい現代において5～10年後の直近の将来と捉えるべきで、同志社大学は、この機会に更なる発展を目指したいという強

い思いに感銘を受けました。

1日目の終りには、京都ガーデンパレスでの夕食懇親会が催され、教師・信徒の分け隔て無い楽しい交わりの場に加わることができまして幸いでした。

2日目の全体協議会は、「教勢低下の中、今後の教会のあり方を展望する」という、非常に重要なテーマについて、個性的な3牧師の発題があり、各教区、教会が未来に向けて与えられた役割、責任を果たそうとする姿を目の当りにして、自分に何ができるかを考えるきっかけを与えられました。

閉会礼拝は、高槻日吉台教会の吉岡恵生牧師の説教でしたが、息子の説教ということで緊張し、声のパワフルさ以外、覚えていません。

閉会後は、キャンパスツアーに参加し、普段入ることのできない礼拝堂、建物を見学し、貴重な経験ができました。酷暑の中、ツアーを引率して下さいました牧師先生、ご家族に感謝いたします。

川上 純平（会津若松教会）

2025年8月25日（月）～26日（火）に「全国同信伝道会神学協議会2025」が7年振りに寒梅館ハーディーホールで行われた。参加者数は186名であった。

開会礼拝説教が福山裕紀子牧師（廿日市教会）によってなされた。教会同士が共に礼拝を守り、そこに主イエスによる「平和」が生まれることの大切さを想わされた。また「永眠者記念祈祷」が西澤他喜衛牧師（曾根教会）

によってなされ、この時、19名の召天教師が覚えられ祈られた。

その後、菅根信彦牧師（同志社教会：全国同信伝道会会長）からの挨拶が行われて歓迎の言葉が語られ、新井純牧師（世光教会：神学協議会実行委員会）によるオリエンテーションへと続き、小原克博教授（同志社大学学長）によって今回の主題講演「キリスト教主義の将来～同志社創立150周年を迎えて～」がな

された。同志社創立150周年というこの記念すべき時に相応しいテーマであり、また講演の後でなされた質疑応答の中には組合教会との関連での問いもあり、良き学びの時となった。その後、京都ガーデンパレスで「夕食懇親会」が行われた。和気あいあいとした雰囲気の中、久しぶりにお会いする方、初めてお会いする方とご挨拶し、交流の時を持つ事が出来た。地区ごとに参加者紹介もなされ、盛り上がりを見せる中、最後は「同志社カレッジ・ソング」で締められた。

二日目、寒梅館ハーディーホールに戻り、

そこで「全体協議会」が行われ、3人のパネラー（牧師たち）によって発題がなされた。それぞれのお話をお聞きし、その置かれた場は教勢と財政が行き詰まっているが、如何にして教会としてその課題に取り組むかを考えさせられた。

神学部と全国同信伝道会による報告の後、閉会礼拝が行われ、吉岡恵生牧師（高槻日吉台教会）が説教で教会の原点に立ち帰ると語られた言葉が印象的であった。

今回、様々な課題を共有し、次回の神学協議会での再会を望みつつ、会を終えた。

❖ 第77回 西日本献身キャンプ報告 ❖

事務局 三浦 遙（鳳教会）

第77回 西日本献身キャンプを7月29日（火）～31日（木）にびわこリトリートセンターにて、無事開催することができました。今年度のキャンプは、長年スタッフを担って下さっていた方々が退かれ、新しいスタッフをお迎えして開催されました。例年、スタッフの担い手不足の課題がありますが、ご多忙の中、大切な役割を担ってくださったスタッフの皆さんに心より感謝いたします。また、東日本ユースキャンプの運営を参考にしつつ、西日本献身キャンプの組織のあり方や根本的な部分での話し合いを多く行うことができました。しかし、そのことで例年よりも準備に時間がかかり、多方にご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

今回のキャンプは高校生年齢を対象としました。昨年度は大学生の参加も多く、大変賑やかになりましたが、その反面萎縮してしまうキャンパーも少なからずいたためです。短い申し込み期間にも関わらず、6名のキャンパーが参加をしてくださいました。過去にキャ

ンプスタッフを担ってくださっていた方からのお誘いなどによって、参加して下さったとお聞きし、西日本献身キャンプを覚えてお祈り、お支えいただけていることに感謝するばかりです。キャンパー達も緊張しつつではありましたが、チャプレンの桜井 希さん（同志社中学校・高等学校 教員）、講師の三宅 威仁さん（同志社大学 神学部 教授）、そしてスタッフとも打ち解け、良い交わりと学びを経験していたと思います。

このキャンプの開催に伴い、多くの教会からご献金、また同信会からも多くのご支援を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。年々、献金が減少し会計的にも厳しい状況にあります。その中であってお支えくださる皆様のお祈りとご協力に深く感謝いたします。今後もどうぞ祈りの内に覚えてい頂けると幸いです。何より、キャンパー達のこれからの歩みの上に、主の豊かな恵みが注がれますようにと祈ります。

❖ 東日本ユースキャンプ2025報告 ❖

主事 玉置千鶴子（長岡教会）

主題：「自己と他者へのまなざし」

マタイによる福音書 5章44節～45節
チャプレン：大門耕平（東北学院大学）

講師：三輪地塩（同志社大学神学部）

日時：8月6日（水）～8日（金）

会場：菱風荘@新潟・福島潟

上記の通り、今年度もキャンパー10名を迎えて東日本ユースキャンプを開催することが出来ました。線状降水帯・暴風雨により、比較的キャンプ場の近くにおいて避難警報等も出る中、初対面の緊張と共に集まったキャンパー達は「本当にやるんですか…」と言わんばかりにテンションだだ下がりの中ではありませんでしたが、次第に打ち解け、最後まで事故や怪我もなく安全に・楽しく過ごすことが出来ましたことを感謝と共にご報告いたします。

チャプレンからは開会・閉会礼拝を通して3Dプリンタで作成されたアウグストゥスの彫刻がプレゼントされ、デジタル化の発展によって彩色がされていたとわかってきた中でどのような色が適しているのかを想像しつつ、戦争と平和（絶対平和主義・正戦論・聖戦論）、果たしてキリスト教はどこに立っているのかということについて歴史を振り返りながら共に考えました。そして「剣を鞘に納めなさい」との言葉を想起しつつ、私たちが持つべき考え・行動を問い続けていくことの必要性が分かち合われました。

講師による神学部アワーにおいては同志社大学神学部についてはもちろんのこと、“大学で学ぶ”ということについても考えることが出来ました。

スタッフからも朝・夕の礼拝を通して様々な思いが分かち合われました。

一つひとつのプログラムやグループ活動を中心とした分かち合い、また夜の語らいなどをも通して、それぞれに自分の心の中に一人で抱えていた思いや他者と深く向き合い、スタンプやキャンドル・サービス（証し）を通して、互いの心に静かに触れ・聴き合う時を持つことが出来ました。

その他、空き時間に花火やモルックを楽しんだり、人狼で盛り上がりたり、また今年度もサポーター・料理長として長倉望牧師を中心に新潟教会の皆さんのご協力のもと、おいしいお食事を通して心も体も満たされた時間を過ごすことが出来ました。

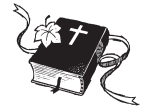
最後になりましたがキャンパーを送り出して下さった保護者の皆様・関係者の皆様、また献金や差し入れ等、様々な形でお覚えお支え下さった皆様、及びスタッフまた送り出してくださった関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

今年度はこれまで少しあげられてもいた「3泊4日はハードルが高い」との声も参考に、従来より日数を1日減らした2泊3日という形での開催を試みました。最終日前夜には「もう終わっちゃう…」との声と共に「でもこれくらいが良い…」との声もあり、今後も検討してまいりたいと思っておりますが、既に来年度については同キャンプ場にて2泊3日(8/5～7)での開催を予定しています。引き続きこの東日本ユースキャンプ（東日本高校生献身修養会）がこれからも継続されていきますように、祈りの内にお覚えお支えいただけますと幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

郵便振替

東日本ユースキャンプ00140-9-743198

奨学金受給者の声



▶ 神学生奨学金

■ 同志社大学神学部 市田純子

全国同信伝道会より奨学金を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。私は教会墓地・納骨堂を修士論文のテーマとして大学院で研究をしております。様々な教会に足を運び、現場の先生方のお話をうかがう中で、地方の教会で牧会をしたいという気持ちを新たにしています。神学の学びは広く、深く、足がすくむ思いですが、支えてくださる皆さまの祈りにこたえられますよう、これからも精一杯勉学に励んでまいります。いただきました奨学金は、卒業後の牧会を見据えた神学書などに使いたいと考えております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

■ 片岡希望

このたびは奨学金を支給していただき、心より御礼申し上げます。経済的ご支援をいただけることにより、学業に一層専念できる環境を整えることができました。ご支援くださる皆様のご厚意に応えるべく、学問に真摯に取り組んでまいります。また、教会と地域への奉仕もより豊かなものとなるよう尽力してまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

■ 同志社大学大学院神学研究科修士2年 小林恭平

この度は昨年度に引き続き、神学生奨学金をご支給いただき、心より御礼申し上げます。皆様からのお支えとお祈りにより、牧会への歩みが備えられていることにあわせて感謝申し上げます。奨学金は、修士論文や説教積義のためのツールや研究書、注解書のために活用させていただいております。

修士課程にも終わりが見え始め、論文執筆や補教師検定試験のための準備に追われる日々ではございますが、皆様の期待にも答えるべく、そして何より主の招きに答えるため、最後まで気を緩めることなく学びを勧めてまいります。

■ 同志社大学大学院神学研究科1年生 高木優菜

この度は、全国同信伝道会神学生奨学金を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。皆さまのお祈りとご献金に支えられて日々神学を学べていることに、あらためて深い恵みを感じております。授業や教会での奉仕に加え、子どもたちへの学習支援の場での経験を通して、福音が若い世代にも届いていく可能性を学びながら、将来の召命を祈り求めています。将来は、教会での牧会に仕えることや、キリスト教主義学校で聖書を教えることなど、神様が導かれる場所で働きたいと願っております。励ましとお支えに感謝し、これからも精一杯学びを深めてまいりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

■ 同志社大学大学院神学研究科3年 滝口大気

牧師を志して神学生として学び始めて3年目を間もなく終えようとしています。与えられた奉仕や学び、様々な人々との交わりの中で多くの愛と恵と御力を感じる日々です。そんな中で、多くの方々がお捧げくださった献金の中から奨学金をいただけたことに感謝いたします。また、そのように整えてくださった主に感謝いたします。今後の学びにおいても、また牧会者として現場に出てからも、皆さまからのお心配りを忘れることなく主の御用の為に奉仕の業に臨んでいきます。改めまして、この度は奨学金を授与していただきありがとうございました。

■長尾恭佳

この度は、全国同信伝道会神学生奨学金をご支給いただきましたことを心より感謝申し上げます。

私は同志社女子大学から神学研究科に入学したため、牧会に出るために必要な授業数が多く、忙しい毎日ですが大変充実していると感じています。

高槻日吉台教会で神学生として奉仕していますし、夏には霊南坂教会での夏期伝道実習の機会をいただくなど、牧会に出るための準備や学びの機会もたくさん与えていただいています。感謝いたします。

今後とも、奉仕と勉学に励んでまいります。よろしく願いいたします。

▶外国人留学生奨学金

■李^リ ^{エルゲン} 尔根

この度奨学生に選出していただき誠にありがとうございました。私は今年4月には同志社大学神学研究科に進学し、現在は実践神学の分野で研究を進めております。研究するテーマとしてはニューメディアと教会との関係を取り上げており、主にVR、AR、メタバースなどの新技術を用いて展開されるオンライン礼拝を中心に、礼拝の新たな形を模索しています。将来にこの研究で得られた成果を教会の現場で生かすことであれば大変意義深いと考えてこのテーマを選びました。私の研究や留学生生活をいつも応援してくださっている教会の皆様へ改めて心より感謝を申し上げます。最近はずいぶん寒くなってまいりまして、皆様が健康にお過ごしになれますようにお体にお気をつけいただき、主の御守りが皆様の上にありますように、お祈りを捧げいたします。

同志社大学神学部報告

神学部長 村山 盛葦

神学部のために常日頃ご厚情をたまわり感謝いたします。神学生奨学金、外国人留学生奨学金、派遣神学生教育支援金、神学生緊急支援金などすでに多くのお支えをいただき、心から感謝申し上げます。同信伝道会の皆様、お一人お一人の祈りに支えられた献金でありますことに改めて感謝申し上げます。また、各教会において神学生のために心を砕き育てていただいておりますことにも心から感謝いたします。このような物心両面でのお支えは、神学生一人ひとりにとって大きな励みであ

り、神学部としてもそれにお応えできるように、日々鋭意努力いたしていきたいと思っております。

9月末から秋学期が開始し、春学期と同様に対面授業やオンライン授業が展開されています。また、入学試験の季節を迎え、9月13日の大学院入学試験を皮切りに、10月4日自己推薦入学試験、10月11日外国人入学試験および3年次転編入学試験、11月22日推薦選抜入学試験が行われました。それぞれの試験に例年とほぼ同数の受験者が与えられました。

また、大学は大学基準協会の大学評価（認証評価）を定期的に（7年に1回）受けることになっております。そこでは、大学の公共性と自律性（入学許可権、教育課程の編成権、単位認定権、学位授与権など）、また内部質保証システムの確立、教育研究水準の向上などが評価されます。今度、同志社大学は2027年に評価を受けます。そのための提出資料を数年にわたって準備してきており、今学期も神学部の自己点検評価委員会、質保証委員会を開催しました。

このような自己点検評価と並行して、少子化対策（受験者の確保）は喫緊の課題であります。例年通り春学期から夏にかけて、キリスト教主義の高校へ教員が出向いて学部紹介を中心とした入学案内を行ないました（同志社学内高校を始め、九州学院、広島女学院、北陸学院、東北学院、明治学院など）。教会現場と同様、大学および学部運営はますますシビアなものとなってきています。そのようななか、同志社大学は創立150周年を迎え、さまざまな記念行事が開催されました。11月29日の創立記念式典は礼拝形式で挙行され、神学部長として聖書朗読と開会祈禱を行なうことができました（於国立京都国際会館）。

10月7日には日本基督教団教師委員会が来訪され、神学教育や継続教育について意見交換を行いました。この訪問は総会期に一度行われているもので、教団認可神学校の責務を再確認すると同時に、種々の課題を共有いたしました。10月12日の神学校日には、神学生や教員が各地の教会に招かれ、説教や奨励の機会が与えられましたことに感謝いたします（軽井沢教会、霊南坂教会、同志社教会、世

光教会、津山教会、福知山教会）。今年度、教団補教師試験の受験者は2名です。人数は決して多くはありませんが、厳しい時代に召命を与えられ、牧会の現場に巣立とうとする若人のために、どうぞお祈りくださいますようお願い申し上げます。

大学キャンパスも主のご降誕を迎え、クリスマスのイルミネーションに包まれています。暗闇に輝くともし火は、暗闇をなくすことはできませんが、暗闇の中で私たちに着実に導いてくれる希望の光であります。いまから二千年前にこの地上に救い主イエスの命が誕生したことは、神のわざ以外の何物でもなく、奇跡であります。生物学者によると（小林武彦『生物はなぜ死ぬのか』講談社、2021年）、生命が原始の地球に誕生する確率は「25メートルプールにバラバラに分解した腕時計の部品を沈め、ぐるぐるかき混ぜていたら自然に腕時計が完成し、しかも動き出す」（同上、38頁）、その確率に等しいということです。生命の誕生は、そのくらい計り知れないほど低い確率であり、何億年というとても長く長い年月の間にそれが生じたわけです。やはりそこには「神秘」と言わざるを得ない神のリアリティがあったと私は信じます。私たち一人ひとりを「存在せしめている絶対的な根拠」としてのリアリティ（＝主イエス）の誕生を覚える季節を共に豊かに過ごしていきたいと思えます。

今後とも神学教育・研究にたずさわるスタッフ一同、神様の業に仕えることの大切さと意義を胸に刻みながら歩んでいきたいと思っております。引き続き物心両面でお祈りお支えいただければ幸甚です。



第5回代議員会期・第1回拡大常任委員会報告

書記 尾島 信之（南大阪教会）

12月1日（月）天満教会に於きまして、拡大常任委員会を対面、配信併用で開催いたしました。三役、常任委員、四部門委員長、全国11地区の代表者等計25名が集い、代議員会（8月27日（月））により選出された常任委員の紹介と、常議員会（8月28日（火）、12月1日（月））を経て提案された四部門と会衆主義教会研究会の委員選任、各地区委員の紹介、各報告が行われました。

第5回代議員会期では、①日本基督教団の現状分析、②全国同信伝道会の諸教会の連帯・財政の分析、③「基督教世界」誌を同信会として支援するための検討作業、④会衆主義教会のメンバーシップについて、⑤その他、以上5項目を課題とし、討議していくことが承認されました。

8月発刊「天上の友第5編」は、神学協議会に参加された方々に記念品としてお持ち帰りいただきましたが、現在全国のキリスト教書店にて販売しております。なお、ニュースレターに同封された振込用紙を用いて「天上の友」に献金をお捧げ下さいますと、郵送にてお届けいたします（一口3,000円）。

最後に、今期の三役・常任委員を紹介いたします（敬称略）。菅根信彦（会長／同志社）、山崎道子（会計／豊中）、入順子（三木志染）、後宮敬爾（霊南坂）、小笠原純（平安）、杉岡ひとみ（千歳栄光）、村山盛葦（神学部）、関谷直人（神学部）、加藤良太（信徒／同志社）、大下真弓（信徒／京都葵）、尾島の以上11名です。よろしくお願いいたします。

地区「合同」人事委員会報告

委員長 菅根 信彦

去る11月29日（土）には、国立京都国際会館を会場に同志社創立150周年記念式をはじめとする諸行事が執り行われました。また、その週には大学イブ祭と並行して様々な創立記念集会や記念企画が各校内を会場に実施されました。そのため、例年11月最後の週に常任委員会並びに地区「合同」人事会が開催されてきましたが、今年度は1週ずらし12月1日（月）～2日（火）にかけて天満教会を会場にした開催の運びとなりました。この夏の

神学協議会の前に招集された全国同信伝道会・第5回代議員会の決議を受けての最初の「合同」人事委員会となりました。1日（月）第1回拡大常任委員会の後、午後4時より協議が始まりました。北海、東北、関東、東京、中部、京都、大阪、兵庫、中国、四国、九州・沖縄の11地区の委員と神学部の委員、さらに、人事委員合わせて22名（オンライン参加を含む）が集いました。関西を中心として構成される人事委員会は毎月1回のペースで、主に

天満教会を会場に開催されています。また、懸案事項がある場合には、拡大三役会を適宜開き対応しています。今回のような地区「合同」人事委員会は、原則6月下旬と11月下旬に2日間にわたって行われてきています。今年度は概ね30教会・伝道所より「教師招聘の依頼」が届いています。

日本基督教団を包括団体とする諸教会全体に言えることですが、コロナ禍以降、教師を迎える諸教会の財政状況が厳しく、謝儀を巡る調整がこれまで以上に必要となっています。また、「兼任兼牧の要請」、「謝儀保障制度の活用」「任期制の導入」などの教師招聘に関する課題があり、さらに、「付帯事業の運営」など、教師の働きに対する様々な要望や仕事の責任性が重くなってきている現状があります。宣教困難な地域では、既に一教会で一人の教師を支えるということが難しくなっていることはご存知の通りです。

一方、教師を紹介する人事委員会では、かつてのような層の暑い教師態勢を維持するこ

とができず、相応しい時期に相応しい教師を紹介することが段々と難しくなっています。正規の神学教育を終えて教団の担任教師へと志す献身者が少なく、同志社大学神学部・神学研究科からの牧会志望の卒業生は、ここ数年2名程度で推移しています。今後早急に、持続可能な招聘制度のしくみ、教師養成の在り方など対応策を考えていく必要に迫られています。

今年度も様々な課題を抱えながらも人事委員会の働きを続けていきます。人事異動のこと以外でも、何かご相談することがあれば、人事委員並びに地区委員へお申し出ください。昨年4月の神戸教会創立150周年、そして、今年7月には摂津三田教会、10月には神戸女学院、11月には同志社が150周年を迎えました。歴史を回顧しつつ、「自由・自治・独立」の精神を豊かに宿す会衆主義教会の諸教会・伝道所、関係学校・施設の働きが膨らみを増して、新しい展開を果たしていけますように願いつつ人事委員会の報告といたします。

財務委員会報告

委員長 平山 正道

みなさまには、いつも全国同信伝道会神学教育後援会への温かいお祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。

12月5日（金）に同志社大学神学館において、村山盛葦神学部長臨席のもと、「全国同信伝道会神学教育後援会 奨学金授与式」を無事執り行うことができました。山崎道子牧師の進行、開会祈祷に続いて菅根信彦全国同信伝道会々長と村山神学部長から挨拶を受けた後、奨学金の目録をお一人おひとりに授与しました。今年度の対象者は、神学生奨学金

（6名）、外国人留学生奨学金（1名）、合計7名、別添会計報告の通りです。これらの奨学金の背後に、関係教会の信徒・教師のみなさんの熱いお祈りとお支えがあることを忘れず、勉学に励んでほしいと思います。昼食を共にしながら、それぞれの学生生活の様子や研究活動について紹介を受け、尾島信之牧師の祈祷をもって閉式しました。

神学教育後援会では、これらの奨学金の他、神学生を側面から支援するために、次の事業を行っています。一つは「派遣神学生教育支

援金」です。本年度、京阪神地区の5教会（6名）に利用していただいています（京都丸太町教会、平安教会、京都葵教会、高槻日吉台教会、高の原教会）。

さらに、来年度から新たに「夏期伝道実習神学生補助金」を設けて、夏期伝道実習に神学部から派遣される学生の支援にも取り組むことが、先日開催された拡大常任委員会で承認されました。今年度中に詳細をご案内しますが、骨子は下記の通りです。①目的：地方の教会が夏期伝道実習神学生を受け入れる際の経済的負担を少しでも軽減する、②応募者：

夏期伝道実習神学生受け入れ教会（日本基督教団所属の教会・伝道所）、③補助金の内容：交通費補助（居住地から現地まで、上限5万円）、④実習期間：2週間以上、⑤予算：20万円（4～5名程度）。

当会が微力ながら行っている、神学生を支える働きは、教師を養成する場でもある同志社大学神学部を支えることにもなり、長い目で見れば、各個教会を支えることにつながっていくものと信じています。引き続き、全国同信伝道会神学教育後援会へのご支援をよろしく願います。

ネットワーク委員会報告

委員長 新井 純

去る8月25～26日、同信伝道会神学協議会2025が開催されました。会場は同志社大学寒梅館、参加者は 名でした。今年は同志社創立150周年を迎える年でもあり、同志社大学の小原克博学長が「キリスト教主義の将来～同志社創立150周年を迎えて～」と題して主題公演をしてくださいました。また二日目は、「教会の現状とこれからのすべきこと」をテーマに、教勢低下という問題を抱える教会の現状を共有し、これからの可能性につい

て各地の教会からの報告や展望を分かち合う時として、伊藤大道さん（興部伝道所、稚内教会）、小林休さん（鳴子教会）、馬場詩織さん（京北教会）の3名に発題をしていただきました。また、協議会終了後には校祖である新島襄先生ゆかりの場所を巡るキャンパスツアーも行われました。

それぞれの教会の独自性が尊重される自治自立の良き伝統を守りつつも、宣教協力や連携の強化も課題として上げられました。

教職養成部門委員会報告

委員長 藤浪 敦子（賀茂教会）

いつも教職養成部門委員会の働きのための祈りとお支えをどうもありがとうございます。

現在、当委員会では、2026年2月16日～18日、同志社大学神学館を会場に開催予定の「牧

会者準備セミナー」の準備を進めています。対象者は牧会の現場に出られて3年目までの教師と牧会志望の大学院生の方々です。今回は、主題講演を扇町教会の山田真理牧師に、神学講演を神学部の三宅威仁教授に、リフレッシュセミナーを高槻日吉台教会の吉岡恵生牧師と広島観音町教会の塩見和樹牧師にさせていただく予定です。

また、2026年度中に「牧会10年経験者セミナー」を開催したいと考えております。コロナ禍で一度開催が延期されていた関係で、今回対象となるのは牧会経験10年目より少し前の方々となります。具体的には、2013年度、

2014年度、2015年度に新卒で着任された教師の方々です。対象の方々には、詳細が決まり次第ご案内させていただきます。

その他、例年通り2026年1月に「春季教師検定試験対策講座」の開催を予定していることと、折を見て伝道師受入教会と同志社大学神学部との懇談会も実施できたらと考えております。

今後とも、当委員会の教師の養成ならびに継続教育のための働きをお祈りに覚えていただき、お支えいただけましたら幸いに存じます。どうぞよろしくお祈りいたします。

❖ 地区報告 ❖

■ 北海道地区

杉岡ひとみ（千歳栄光教会）

前回ニュースでもお知らせいたしました、2025年度は5の方が北海教区の教会に着任されました。札幌北部教会には島田直さん、苫小牧弥生教会には金澤友幸さん、江差伝道所と渡島福島教会には稲垣真実さん、岩内教会には葛井義顕さん、そして旭川六条教会には1年間のお約束で隠退から復帰された山本光一さんが着任されています。新着任の方々も早速教区や地区の中で活躍されています。

北海道の同信伝道会としては5月の教区総会後に改めて集会をもってはおりませんが、教区や地区の関わりの中で共に語り合い、共に食べ、励まし合って活動していく中で互いの距離を縮め、大切な仲間として歩んでいます。このフラットであたかなつながりが同信会のよさであることを思います。これからもこのつながりを大切にして、この北海道の地で共に宣教の業に励んでいきたいです。

■ 東北地区

小林 休（鳴子教会）

5月の東北同信会以降活動はありませんでしたが、今年4月に仙台東教会に赴任された佐々木玲哉先生が春期教師検定試験に合格され、11月24日の教区の集いにて按手礼を受けられました。教会での働きや、保育園の業務をする中での試験勉強は大変だったと思いますが、見事合格され按手礼も受けられたことで立ち会われた教会員の方も喜ばれておりました。東北同信会としても引き続き先生の健康が守られ、御働き祝されますようお祈りいたします。



※写真は按手を受けられた後、挨拶する佐々木先生です

■ 関東地区

川上 盾（前橋教会）

*東日本ユースキャンプが8月6-8日、新潟・菱風荘で行なわれ、10名のメンバーが参加しました。

関東地区からも若い牧師たちがスタッフとして参加しました。

* 関東同信会一泊交流会が2026年2月1-2日、安中・磯部ガーデンで行われます。

「聞こう皆声（きこうかいせい）」をテーマに、日ごろの近況を聞き、牧会上の悩みや課題をゆっくり話し合い聞き合う会にしたいと思います。

* 個人消息・教会動静

- ・ 上原秀樹牧師（筑波学園）：脳出血で入院しておられました。今は快方に向かっているとのこと。
- ・ 吾妻教会（群馬）：2026年4月より、井殿謙牧師の招聘が決まりました。
- ・ 桐生東部教会（群馬）：三浦啓牧師が辞任、2026年4月より敬和学園高校々長として赴任されます。

■ 東京地区

原 牧人（豊沢教会）

東京同信伝道会は、約60の関係教会、また教務教師、無任所教師、隠退された先生方など含め、約100余名の教師たちが在籍されています。また総会で選出された5名の委員が中心となり、活動の企画や人事の件などに携わっています。

直近の活動としては、11月18日に秋の研修会を開催。同志社大学名誉教授の越川弘英先生をお招きし、「あしたの教会～各地のオンライン礼拝の実践例から」と題し、現場での経験から得られた具体的な事例を通じた貴重なお話を伺いました。礼拝のあり方について、様々な角度からの示唆を与えられた時となりました。

2026年2月には、関係教会同士の交流を深める礼拝交流（交換講壇）を予定しています。

■ 中部・東海地区

吉澤 永（愛知教会）

8月31日（日）に、名古屋駅もよりの名鉄百貨店屋上にあるピアガーデンに、8名の参加者が与えられて、懇親の時を持った。

12月2日（火）に南山教会信徒伝道者の大

塚椋さんが、名古屋中央教会にて、准允を受けられた。新しい伝道者の歩みに豊かな主の導きと祝福がおるように、覚えて祈って頂きたい。

戦争は止まらず、コロナ禍以来の物価高、人口減少、少子高齢化の加速など、困難な時代をわたしたちは歩んでいるが、信仰と希望と愛によって歩み、御子イエス様の誕生を待ち望むアドベントを歩みたい。

■ 京都地区

柳井一朗（洛西教会）

京都地区は京都府と滋賀県です。

京都市内、京の底冷えの季節を迎えました。2025年1月29日、学校法人同志社は創立150年を迎えました。同日朝、若王子山頂にある同志社共葬墓地で礼拝が行われました。また同日午後、京都国際会議場にて、記念式典が行われました。墓前礼拝、記念式典共に出席いたしました。

2026年、同志社教会、平安教会が、創立150年を迎えられます。

10年後、京都教会、15年後、洛陽教会がそれぞれ創立150年を迎えられる予定です。

2026年1月1日、京都教区京都南部地区では、恒例の地区新年合同礼拝が、同志社栄光館で行われました。21世紀初頭と比較しますと、出席者数はほぼ半減しました。これは教会の現況教勢とほぼ一致するのではないのでしょうか。

平安教会が昨秋より、礼拝堂の大規模改修工事を昨秋より行っています。外装修繕が終わられました。内装修繕工事中です。今春完了予定です。

クラッパードイン、烏丸今出川同志社の西側にある旧宣教師館です。ヴォーリーズ的设计の建物です。この建物の名称は、3人の北米女性宣教師の名前に由来します。

只今、この建物は、バザール・カフェ、京都教区、北米宣教師団の3者共同運営しています。働きの詳細に関しては、バザール・カ

フェのホームページをご参照ください。

教区センター教会、2022年に設立しました。主な目的は教区の土地建物財産管理です。

2種教会設立を目指して、毎月第三日曜日午後5時、対面配信礼拝を行っています。只今まで、107回礼拝を続けることができました。既存の教会像に捕らわれない、教会を目指しています。

洛西教会では、2025年12月、担任教師にガウンを贈呈しました。かつては、東京銀座教文館内、ナオミにお世話になりましたが、廃業されました。服飾関係者の紹介により、2018年、大阪北浜、野間洋服店に初めて、担任教師へのガウン制作を依頼しました。今回再び、ガウン制作を依頼しました。この度、野間洋服店では、ガウンの制作の型紙を保存されたとのこと。今後、ガウン制作の注文を受けられるとのこと。

■ 大阪地区

尾島信之（南大阪教会）

7月14日（月）大阪淡路教会を会場に、例会が開催されました。吉岡恵生さん（高槻日吉台教会）より発題いただき、15名の参加者がありました。新年度他教区より移ってこられた方、教区内で異動された方も多数お顔を見せて下さり、例会後には食事会も行なわれ、楽しく豊かな交わりの時を持つことが出来ました。

世話人は、戸根裕士さん（蒲生教会）、三浦遙さん（鳳教会）、山下壮起さん（阿倍野教会）、山崎道子さん（豊中教会／人事委員）、尾島信之（地区委員／人事委員）が引き続き担っています。

■ 兵庫地区

新堀真之（甲東教会）

2025年度に入り、兵庫同信会では既に2回の例会が行われました。5月12日（月）の例会では、新たに着任された教師の歓迎や、これからの宣教のあり方について意見交換を行

う機会を持ちました（出席：22名／会場：甲東教会）。11月17日（月）の例会では、「三木志染教会の歴史について」と題して入順子教師（三木志染教会）がお話をしてくださいました（出席：20名／会場：岡本教会）。今年度は3月に再び例会が行われる予定です。

2025年度は、芦屋浜教会、三木志染教会に新しく教師が着任し、それぞれに就任式が執り行われていました。一方、地区内の複数教会は代務者を置く体制に移行しており、ここ数年でその傾向は加速しています。教務教師としての働きと兼ねて、教会の代務者を担ってくださっている教師もおられます。地区内の教会・伝道所、キリスト教主義学校等で協力体制を築き、地域全体の宣教にあたっていくことがこれからの大きな課題です。兵庫教区内でも、兵庫同信会の教師が世話人となり、長らく活動が停止していた阪神地区で1月7日（水）に新年合同礼拝が執り行われるなど（出席：85名／会場：塚口教会）、新たな動きも起こりつつあります。

尚、今年度は、神戸女学院、摂津三田教会で創立150周年事業が行われ、喜びを共に分かち合いました。

■ 中国地区

中井大介（倉敷教会）

2026年1月6日（火）に島根県東部を震源とした地震被害については、大勢の方にお祈りいただき心強くいたしました。ありがとうございます。今のところ被害は報告されておりませんが、引き続きの余震に備え、日ごろの交わりを育て続けていきたいと思っています。さて、中国同信伝道会は、本年の夏に開催予定の西日本同信伝道会を担当いたします。これまでの例にならって2026年8月下旬の月曜日と火曜日の開催を予定しておりますが、準備の中で詳細を詰めていくところです。皆様へのご案内については今しばらくお待ちいたしますが、ぜひ今からのご参加についての心づもりをいただければ幸いです。

2025年度 全国同信伝道会神学教育後援会寄付者芳名 (敬称略)

(2025年4月1日～2025年12月4日現在)

※ ○内数字は寄付回数 お1人(団体)数回のご寄付も1口に

※ 地区の記載は寄付金振込み時の住所による

【北海道】

計	5口	70,030円
石垣弘毅		5,000
札幌北光教会		30,000
月寒教会		15,330
苫小牧弥生教会		18,700
匿名希望		1,000

【奥羽・東北】

(青森・岩手・秋田・宮城・福島・山形)

計	1口	5,000円
鳴子教会		5,000

【関東】

(新潟・群馬・栃木・茨城・埼玉)

計	12口	126,000円
朝日研一朗		5,000
安部勉		5,000
岩河敏宏		10,000
鹿島教会		10,000
栗原豊幸(故栗原千鶴甥)		50,000
寒河江健		5,000
櫻井義也		3,000
原誠		3,000
東所沢教会		10,000
福本光夫・正美		10,000
宗像亮二		10,000
森岡高康		5,000

【東京・神奈川・千葉】

計	9口	361,000円
荒井仁		5,000
飯田義也		10,000
木戸定		3,000
千葉教会		20,000
徳田信		3,000
土橋晃		5,000
原宿教会		300,000

藤原佐和子		5,000
棟方千恵子		10,000

【東海・中部・北陸】

(長野・山梨・静岡・富山・石川・福井・愛知・岐阜・三重)

計	4口	68,000円
愛知教会		50,000
稲垣壬午		10,000
中部教区三重地区婦人部		5,000
名古屋東教会		3,000

【京都・滋賀】

計	26口	233,750円
赤松信哉		5,000
秋田まち子		3,000
池田令子		5,000
石若義雄		5,000
伊吹敏明		10,000
大津教会		10,000
小笠原純②		10,000
桂教会		26,700
岸本兵一		5,000
君村千代子		10,000
京都葵教会		24,100
京都南部地区信徒有志		3,000
京都丸太町教会		7,000
京北教会		10,000
世光教会		10,000
張悦子		20,000
所久雄		10,000
平野正		5,000
福井生		5,000
福知山教会		9,500
平安教会		20,450
溝尾明		5,000
水口教会		2,000
三好照孝		5,000
室町教会		3,000

洛南教会		5,000
------	--	-------

【大阪・奈良・和歌山】

計	14口	176,129円
池田五月山教会		10,000
泉大津教会		5,000
扇町教会		10,000
小西望		10,000
小林秀一		779
杉本龍彦		10,000
高槻南平台教会		5,000
豊中教会		51,600
浪花教会		10,000
藤戸和子		3,000
マラナ・タ教会		2,000
南大阪教会		43,750
三宅威仁		10,000
匿名希望		5,000

【兵庫】

計	13口	217,000円
阿南惟弘		5,000
生地善人		8,000
神戸教会		60,000
杉田俊介		3,000
曾根教会		10,000
根津仁詩		2,000
古河静子		5,000
右田昌彦		3,000
村山盛葦		10,000
村山盛嗣		3,000
望月修治		5,000
山邊多嘉子(瑠子)		100,000
匿名希望		3,000

【東・西中国】

(岡山・広島・鳥取・島根・山口)

計	7口	74,500円
足立こずえ		10,000

足立麻子	10,000	【九州】		
宇野稔	12,000	計	6口	47,000円
旭東教会	5,000	浅野直人		10,000
周陽教会	10,000	池内裕		10,000
津山教会	22,500	今井牧夫		2,000
床次隆志	5,000	高橋哲郎		10,000
		西八條敬洪		5,000
		福岡弥生教会		10,000

【四国】

(愛媛・香川・徳島・高知)

計 2口 8,000円

宮崎達雄	3,000
匿名希望	5,000

【海外・その他】 ※住所不明を含む

計 1口 2,252円

ヒラカワ ススム	2,252
----------	-------

合計 100口 1,388,661円

【海外・その他】の方で、お名前の漢字と地区をお知らせいただける方がありましたら、神学教育後援会のメールアドレスもしくは担当の山崎道子（豊中教会）までご連絡ください。

2025年度 全国同信伝道会神学教育後援会寄付金地区別表

(2025年4月1日～2026年3月31日)

2025年12月4日現在

地区	2023年度決算		2024年度決算		2025年度累計		2025年度予算
	口数	金額 (円)	口数	金額 (円)	口数	金額 (円)	金額 (円)
北海道	7	59,540	7	64,000	5	70,030	100,000
奥羽・東北	4	28,000	6	28,000	1	5,000	100,000
関東	23	164,000	23	172,000	12	126,000	250,000
東京・神奈川・千葉	24	792,797	28	803,000	9	361,000	950,000
東海・中部・北陸	17	183,000	15	124,000	4	68,000	300,000
京都・滋賀	55	555,000	51	516,800	26	233,750	700,000
大阪・奈良・和歌山	37	410,650	34	2,377,265	14	176,129	550,000
兵庫	29	333,000	37	369,660	13	217,000	500,000
東・西中国	20	121,000	20	154,262	7	74,500	200,000
四国	8	135,000	6	110,000	2	8,000	200,000
九州・沖縄	11	97,000	11	115,000	6	47,000	150,000
その他			2	15,000	1	2,252	
合計	235	2,878,987	240	4,848,987	100	1,388,661	4,000,000

2025年度 全国同信伝道会神学教育後援会 会計報告

(会計年度 自2025年4月1日～至2026年3月31日)

2025年12月4日現在

収入の部

(単位：円)

	2024年度決算	2025年度予算	2025年度累計	予算比	備考
前年度繰越金	2,731,227	4,376,766	4,376,766	100%	
寄付金	4,848,987	4,000,000	1,388,661	35%	
特別献金	50,000	50,000	50,000	100%	
同信会会計より繰入れ			0		
雑収入	296	3,000	3,194	106%	預金利息
合計	7,630,510	8,429,766	5,818,621	69%	

支出の部

(単位：円)

	2024年度決算	2025年度予算	2025年度累計	予算比	備考
海外留学生奨学金	360,000	360,000	120,000	33%	1名
神学生奨学金	600,000	720,000	720,000	100%	6名
赴任時奨学金	800,000	800,000	0	0%	
派遣神学生教育支援金	470,000	600,000	720,000	120%	6名(5教会)
神学生緊急支援金	0	100,000	0	0%	
神学部への寄付	30,000	30,000	0	0%	
神学研修講座補助金	100,000	100,000	0	0%	
神学協議会補助金	0	400,000	400,000	100%	
献身キャンプ(東・西)補助金	400,000	400,000	400,000	100%	
予餞会補助	50,000	50,000	0	0%	
募金事務費	145,400	150,000	48,187	32%	
印刷費	0	20,000	0	0%	
郵送費	247,385	350,000	150,000	43%	仮払い
雑費	50,959	60,000	47,029	78%	
予備費	0	4,289,766	0	0%	
次年度繰越金	4,376,766		3,213,405		
合計	7,630,510	8,429,766	5,818,621	69%	

海外留学生奨学金：奨学金 (@12万円×1名) ※募集は3名
 神学生奨学金：奨学金 (@12万円×6名) ※募集は7名
 派遣神学生教育支援金：支援金 (@1ヵ月1万円×12ヵ月×6名予定) ※募集は8名
 神学生緊急支援金：奨学金 (10万円) ※募集は3名
 赴任時奨学金：奨学金 (@20万円) ※対象者全員支給
 献身キャンプ補助金：西日本キャンプ (15万円)、東日本キャンプ (25万円)
 募金事務費：振替料金、領収書・名簿整理費、事務局経費、会計事務謝礼
 郵送費：ニュースレターNo.27郵送費、宛名ラベル代
 雑費：奨学金授与式昼食代、委員会費

【予告】 2026年より「夏期伝道実習神学生補助金」がスタートします!!

2026年の夏、同志社大学からの夏期伝道実習神学生を受入れる教会・伝道所・地区などへ、神学生の交通費を補助する制度を始めます。複数の教会で一人の神学生をお招きいただく場合も対象となります。

この機会にぜひ、この補助金を活用して、夏期伝道実習神学生の受け入れをご検討ください!!

(詳細については、「財務委員会報告」のページをご覧ください)

全国同信伝道会会計収支経過

収入の部

単位：円

科 目	2024年度 予算	2024年度 決算	2025年度 予算	2025年度 11月24日現在
前年度繰越金	3,122,235	3,122,235	3,226,754	3,226,754
分担金	900,000	1,056,909	900,000	163,000
会費	400,000	468,110	450,000	228,500
感謝献金	400,000	488,000	450,000	197,000
クリスマス献金	50,000	101,000	100,000	0
東京同信伝道会分担金	250,000	250,000	250,000	0
会衆主義パンフレット	5,000	1,404	5,000	8,650
招聘ハンドブック	15,000	173,000	50,000	10,500
受取利息	10	370	2,000	3,308
合 計	5,142,245	5,661,028	5,433,754	3,837,712

支出の部

単位：円

科 目	2024年度 予算	2024年度 決算	2025年度 予算	2025年度 11月24日現在
人事委員会費	150,000	222,967	200,000	107,657
問安費	150,000	251,744	200,000	69,745
事務通信費	40,000	66,314	70,000	44,676
慶弔費	50,000	6,160	30,000	16,940
合同委員会（6月）	450,000	404,436	450,000	588,263
合同委員会（8月）	0	0	100,000	20,000
合同委員会（11月）	450,000	468,868	450,000	0
財務委員会費	50,000	50,000	50,000	0
教職養成部門委員会費	100,000	100,000	100,000	0
ネットワーク部門委員会費	50,000	50,000	50,000	0
ニュースレター印刷費	300,000	283,140	300,000	136,730
会衆主義教会研究会費	400,000	322,780	400,000	142,270
ホームページ	100,000	7,865	60,000	6,292
代議員会費	0	0	150,000	190,000
補助金	100,000	100,000	300,000	300,000
予備費	2,752,245	0	2,523,754	331,000
次年度繰越金	0	3,226,754	0	1,884,139
合 計	5,142,245	5,661,028	5,433,754	3,837,712

✦ 召天者報告 ✦

前島隆志教師 2025年1月27日 召天 92歳
1966年同志社大学院修了
長岡京教会で伝道牧会されました。

高井 望教師 2025年6月8日 召天 70歳
1981年同志社大学院修了
南大阪教会、室蘭知利別教会、石山教会で
伝道牧会されました。

江川 永教師 2025年6月23日 召天 93歳
1958年同志社大学院修了
聖ヶ丘教会、水戸教会、緑野教会、矢板教
会、東京池袋教会、南板橋教会、東京府中
教会で伝道牧会されました。

山本敏明教師 2025年6月28日 召天 89歳
1967年同志社大学院修了
尼崎教会、桂教会で伝道牧会されました。
長崎学院で務められました。

武岡洋治教師 2025年10月16日 召天 88歳
2002年同志社大学院修了
名古屋東教会、安城教会で伝道牧会されま
した。

定家久美子教師 2025年12月7日 召天 88歳
弓町本郷教会、常磐教会、弓町本郷教会で
伝道牧会されました。

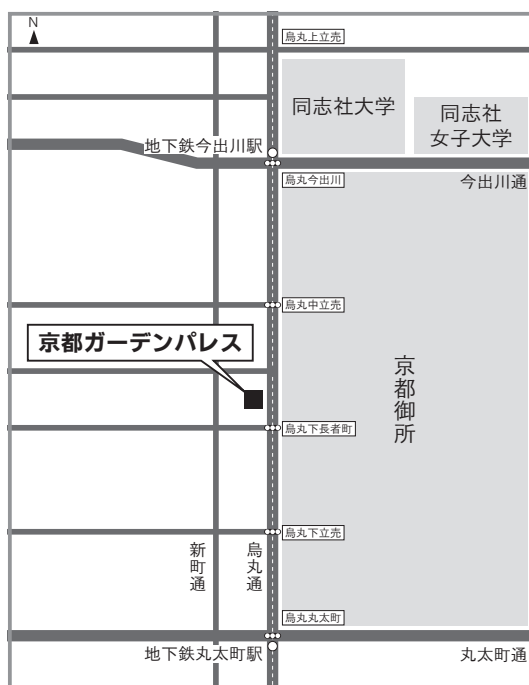
中島哲也教師 2025年12月12日 召天 89歳
1961年同志社大学院単位修了
島之内教会、但馬日高伝道所、丹陽教会、
芦屋浜教会、島之内教会で伝道牧会されま
した。

ご遺族、ご関係者、ご関係教会の上に、主
のお慰めをお祈りいたします。

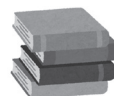
◇ 行事予定 ◇

●予餞会

日 時：3月6日（金）午後6時
場 所：京都ガーデンパレス
参加費：5000円
締切日：2月24日（火）



出版物



- ・会衆主義パンフレット1
会衆主義について ～キリストにある自由を生きる群れ～ 税込 432円
- ・会衆主義パンフレット2
会衆主義教会のあゆみ ～キリストと共に進む宣教の展開～ 税込 432円
- ・会衆主義パンフレット3
会衆主義教会の使命 ～キリストに与えられた務めと希望～ 税込 540円
- ・会衆主義教会ハンドブック「教師招聘」 500円

販売取次教会

伊丹教会	山本 一	同志社教会	菅根信彦
豊中教会	山崎道子	南大阪教会	尾島信之
霊南坂教会	後宮敬爾		

編集後記

ネットワーク委員会では年に2回ニュースレターを発行してきました。筆者は3年前からこの働きに関わるようになり、計6回分を担当させていただきました。改めてニュースレターを読み返してみると、コロナ禍の対応、それぞれの地でなされてきた宣教活動、同信伝道会の働きなど、様々な出来事があったことを思い出します。

10年後、20年後の教会がどうなっているのかは分かりませんが、一步一步、その歩みを支えてくれた方がいたことを思うと、「なるようになっていくのだ」と感じます。時に委ねながら、時に踏ん張りながら、これからも同信会に関わる皆様の日々の働きが守られ、祝されますようにお祈りいたします。

今号のためにご寄稿くださった全ての皆様に心から感謝いたします。

(U. T)

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| ■発行責任者 菅根信彦 | ■編集責任者 新井 純 (ネットワーク委員会) |
| ■財務責任者 平山正道 | |
| ■全国同信伝道会神学教育後援会募金担当 山崎道子 | |
| ■全国同信伝道会分担金担当 尾島信之 | |